

天気予報の検証結果の見方

【府県天気予報（今日、明日、明後日の予報）】

明後日までの予報は、朝（5時）、昼（11時）、夕方（17時）に全国の各気象台から発表されています。

【予報検証結果の掲載内容】

気象庁では、これら発表された予報と実況を比較して、予報精度の検証を毎月行っています。「予報精度検証」のページにこの検証結果を次の通り掲載しています。

- ① 朝、夕方発表の今日（夕方については今夜）、明日、明後日予報の降水の有り・無し（「降水の有無」）についての適中率等*
- ② 朝発表の今日の最高気温、及び夕方発表の明日の最高気温・最低気温の予報誤差*を表または図で示しています。

*適中率・予報誤差等の説明は、当ホームページ内の「検証方法の説明」をご覧ください。

【図表の見方】

「予報精度検証」のトップページには、東京地方の「降水の有無」の適中率と、最高気温の予報誤差の検証結果をグラフで掲載しています。検証結果の見方として、「降水の有無」の適中率は数字が大きいほど良く、逆に最高（最低）気温の予報誤差はその値が小さいほど良いことを示します。

その他の各グラフは、夕方発表の明日予報についての「降水の有無」の適中率と最高・最低気温の予報誤差について、1992年から現在までの月毎の結果を示しています（全国平均及び各地方の結果）。月毎のグラフは大きく季節変化**していますので、長期的な傾向をみるために12か月移動平均を施したグラフを併せて図示しています。全国平均のグラフをみますと、梅雨期から夏季にかけて適中率が低下するといった季節変化はあるものの、2019年から2021年までの最近3年間を平均した「降水の有無」の明日予報（17時発表）の適中率は約85%、「降水あり」予報の適中率は約80%、「降水なし」予報の適中率は約88%となっています。また、最高気温の予報誤差は冬季に誤差が小さくなるという季節変化がありますが、最近3年間を平均した予報誤差は約1.4℃となっています。最低気温の予報誤差も季節変化をしますが、平均的には約1.2℃です。

最新月の各種検証結果は、表で掲載しています。表中の語句等については、「検証方法の説明」をご覧ください。

**季節変化の詳しい解説は、当ホームページ内の「天気予報の精度の例年値とその特徴」をご覧ください。